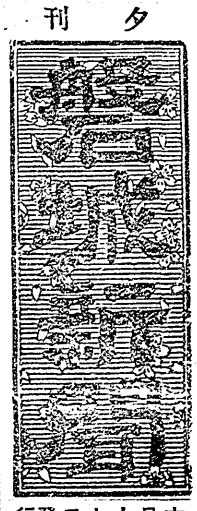
夕刊



六月十七日發行

定價　一ヶ月金六拾五錢　郵送料金六拾錢
廣告料金　一行一回　金九拾錢
編輯兼發行人　田邊孝治
印刷人　木村哲
磐城新聞社
發行所　磐城新聞社
電話　磐城一〇八・五六六五番

（日曜祭日翌日休刊）

天氣豫報

小名浜測候所調査

今晩は北の風晴時々曇
明日は南の風晴時々曇

濃翠漫想（五）

赤井嶽男

所謂『理想』は意志が努力して到達すべき最高目標即ち究竟目的で眞、善、美等が是である。理想は意志に隨つて行動により實現されるものであるが其の完全な實現は蓋し人間により遂行されないと云はれてゐるが吾人の實踐哲學に於ては理念若は理想を意志の目標とし、之を生活に實現せんとしつつあるのでそこに天然をより支配せんとする文化が生れて來る――吾人は理くつを恁麼具合に歸納して居る。

○

明治四十四年の春。自分の樺太住ひ第一期時代に於て當時萬朝報が懸賞募集してゐた『余の理想』に應募當選した事がある

二十何年も前の平で正確な處は忘れたが、何でも――昨夜國館を出た汽車が今朝稚内へ着く。近頃米國の某州に出來た其と同じだと云ふ最新式の棧橋を渡つて乘り込むと色々な人で船は一ぱいだ。

×時間で大泊へ着く、捕鯨會社の大煙突が煙を吐いてゐる。豐原へ駛る汽車の笛も勇ましい。薔薇を助ける海草を發見してからは海豹島の臘纈膠がバカに殖えて近く其の一部を海馬島へでも移さねばならぬと云ふ。學校が次々と出來て全島にイロハを知らぬ兒童は無い。氣候は年々暖かになつて來る

と云つた筋であつた

○

函館着は小樽から乘つた船が北見の稚内の鼻を躱して樺太の亞庭灣内深く而も時速八・九浬のそれも千噸騰など、當時の理想は着々足らずの船でやつて行く當時の船旅は單り船に弱い女子供ばかりで無く血氣な出稼ぎ漁夫らさへヘト〳〵に締められたものであつた。

晴れた日にはよく對岸が見える稚内、能登呂間を關門乃至青函のそれのやうに連絡船にし度い希望は遂せられぬ迄もせめて北海道内を稚内迄汽車にし度いと云ふのが其頃樺太旅行者にとつて大なる理想であつた。

處が幾干も無く稚内迄のそれが實現された。それに貴重獸臘纈膠の人工增殖こそ出來無いが。學校網の完成人口の濃度に伴ふ氣温の昂騰など、當時の理想は着々として實現されて行く當

○

宇宙の悠久から見るとホンの一瞬にも當らぬ人生五十年の短時間に於て斯うした推移が眺られる。底止する處無い文明は『理想』に對する觀念をさへ取換えさせたのだ

磐城歌壇

新妻久滿男 選

『椿のうた』　國玉喜

○白椿咲けば深山も寂光の淨土の如き閑げさの滿つ

○紅椿お夏が戀の狂亂に打伏すさまに散りしけるかな

○心惹く花にはあらぬ戀を知るひとのみ知れる椿の愛さし

○つと落ちて草にかくるる紅椿はかなきひとの情のごとく

○燃え燻りまたもおち來ぬ紅椿その散りぎわの美しきかも

○人妻の戀にたとへてさびしさのきわみに立てる紅つばきかな

小評　歌ひなれてゐる點はよしとして技巧に流れ、主觀が勝ち過ぎてゐる嫌ひがあるのを遺憾とする。作者最近の傾向がこの方面に赴きかけてゐる樣であるが、もう少し寫生の練習をして見たらいかゞと思ふ

『暫く歌壇を休載してゐたがまたもとの如く服はしたいと思つてゐる。投稿家各位の御精進を願ふ』

魚釣

佐分利晃

池のほとりに爺さん二人
今日も今日とてきせるを口に
糸をおろして水の面のウキを無言で見てゐます
靜かな夏の午後の日に
柳の根元に腰かけて
二人仲よく麥藁帽
帽子にあトンボがとまつてる
時折顔を見合せて
『今日も不漁かな此の分ざわ』
『本當に今日も駄目らーい』
交す言葉ものんびりと
白い家鴨がガア〳〵と
泳いでおります三羽四羽
爺さんブツ〳〵口の中
『家鴨の故だこの不漁は』
空は夕燒晒の雲よ
爺さん二人は背のびして
『毎日不漁ではやり切れぬ』
『今日も遂々駄目だつた』

分り易く言ふ

再び愛郷書狀に就て齊藤氏へ

島田春雄

三

例へば美術に就ては門外漢だと最初から謙遜してゐるが、筆者が美術の領域で滿更めくらでないことは知つてる人は知つてゐる）投じた一石で根底から覆されるやうな覺束ないものだつたら無理をしないで止めるに如かず、でなかつたら筆者如きが何を言はうと斷然歡迎されるやうな良いものを作ることだ筆者はその後何等平市躍進の姿が現はれ者を望めばこそ即後二回に亘つてこの磐新紙上の貴重な一欄を汚してゐるのだといふことを御承知ありたい

――その四

所謂『名所とはなにか』

に就いては齊藤氏も筆者と同意見であることを述べて居られるし、既に最初は平市新名所繪葉書と銘打つてあつたのを今度は『風景』と改めたやうだから之はどうやら齊藤氏が無言の敗北をしたものと認めてこちらも沈默しやう

最後にあの八景の風景に

ては齊藤氏が、いま流行の神風を飛ばせたり、子鍬倉神社の大鼓などを叩いてゐるにも拘らず筆者は遺憾ながら前言を取消すわけにはゆかぬ、殊に齊藤氏の語る子鍬倉神社の一境に至つては筆者なんとも諒解に苦しむ次第だ

更に齊藤氏の躍進論ならびにその解説論に及んでは啞然とせざるを得ない、どんな解説か知らんが『これか躍進平だ、躍進平はこれで御座い』といくら押しつけられても描かれたものにこれこれんばかりも躍進性がなかつたら觀る者はそれこそ寶探しでもするやうに『躍進は何處だ、何處だ』と蟲眼鏡でも出して眺めるといふ奇觀を呈するであらう、藝術に說明は要らない、說明しなければ分らないやうな藝術はすでに藝術ではない

而して筆者は藝術でないあの八點の風景に謹んで解說を加へやう

――をはり――

妖刀流轉（116）

邑井貞吉演
佐々木今朝吉畫

惡黨同志（六）

與四郎が長々との物語りを聞いて、熊吉の文助は醉もさめ、廻る因果と言ひながら、共に惡事を働いた三人組僞金造りの張本人、大島傳五助が我兄の、藤作を手にかけて殺したのかと思へば青くなり赤くなり、齒をくひ縛つて暫くの間、ウーム〳〵と呻つて居りましたが、

熊『そうかこア、知らなかつた知らなかつた』與四郎よくお前俺に知らせて呉れた、兄弟分なればこそと俺は厚く禮を云ふぜ』

與『本當にお前にも氣の毒だが、何うかして早くこの事を、お前に聞かせたいと思ふから、俺は牢を出るとスグにお前の家へ行つたが近所でも行衛を知らねえといふから、何の位苦勞をして尋ね廻つたか知らねえんだ』

熊『そうだらう〳〵、濟まぬ』

與『何しろ俺は藤作さんが殺されてスグと、寃罪で牢へ入れられたのだが、何うなつたかもよく知られねえ

愛の冷却に逆上し 年増酌婦を刺殺す

名物男チョン髷飴屋の兇行

夏逝い平和な會津盆地の人々を驚かした血醒い事件。若松市本郷町飲食店賣來家方で酌婦と無理心中を謀った平市新川町正月家浪花節語り茨城縣那珂郡野口村生れの皆川七郎(四〇)こそ以前平にゐておよそ時代放れしたグロ味横溢のチョン髷あたまを振り立て之を賣物にした——あの名物男のチョン髷飴屋で昨今街の話題を賑はしてゐる

十五日午前二時頃前記へ登伴れにしたものと判明し樓した酌婦の山形縣南村山郡木澤村生れ渡邊きくよ(三四)を相手に遊興し男女共ら浪花節語りの素情を知ら朝の十時になつても起きなれ他所へ〜しくされるやういので家人が不審に思ひ部屋を見ると手拭で絞殺された女の傍に男が鋏で咽喉を切り紅に染り、苦悶して居るので大騒ぎとなり、若松署で檢視の結果馴染客なる男が無理心中を企て女を道

宿命呪はし

血にゆかりの男

市内鎌田町居住中 六年前には内妻を刺す

七郎が當時市内鎌田町下川原に居住中去る昭和六年四月一日の深更熟睡中の妻を刺し平署へ自首したことは未だ世人の記憶に殘つてゐることだ(當時の本紙記事)

——七郎は突如起上り双渡四寸三分の鋭利な短刀を以つて傍に熟睡中の内妻森田ヨシ(二一)の咽喉部目がけて突刺したが手許が狂つて右背深く突き刺さつたのを悲鳴に驚いて跳ね起きたヨシの兩親に當る森田ヨメ、小林惣九郎の兩名に支へられ今朝平署に自首した、同人は生活裕かならず昨年十二月初め前記ヨシと結婚してからは一層生活が苦しくなつた處最近ヨシの兩親を引取つて扶養せねばならぬ事情になり到底やり切れぬと云ふ處から前夜遲く迄激しい夫婦喧嘩をなした揚げ句ヨシが夫婦別れを言ひ出したのでつきり女に倦きが來たものと早合點し遂にこの擧に及んだものらしい七郎はこの事件で服役出所後は再び平に舞ひ戻りしばらく以前の飴屋をやつてゐたが其後名物の髷を斷ち切り新川町に轉住して浪花節語りに轉向、各地を流しを以つて傍に熟睡中の内妻ヨシを殺さうとして宮城刑務所で二年の刑に服した前科二犯男である

女斬り今度で三度目

なほ七郎は大正十二年五月

身体を縛りつけ 夫婦別れ心中

好間坑夫長屋の惨事

けふ十七日午前十一時四十分頃好間村北好間字椎木平二〇小田炭礦長屋居住坑夫双葉郡龍田村字繁田生れ瀧澤源之助(三〇)は内妻藤野ミネ(三一)と身体を結びダイナマイト心中を遂げた、轟然たる音響に附近のものが發見、平署から係官急行

女は胴体真二つとなり肉片が四邊に飛散して目もあてられぬ惨狀を呈してゐる、原因は妻の病弱から最近別れ話が持ち上り亭主の未練から無理心中を謀つたものらしいと

出廻り最盛期近し 四倉の繭市場賑ふ

取締所最近の統計

繭蚕取締平支所管内の主な集散地である四ケ所の春繭出廻り數量が發表された

(平)六四、〇〇〇貫(四倉)二〇、〇〇〇貫(植田)一三、五〇〇貫(上遠野)一〇、〇〇〇貫

でその出廻り最盛期は四倉と平が十八日、植田、上遠野は二十三日頃である、目下取引を續けてゐる四倉市場も愈よ最盛期に入つて連日賑ひを呈してゐる

六圓台近し

出廻りも激增

昨十六日の四倉市場は出廻り二千二百五十九貫の多量に達しこの取引額一萬二千六百七十二圓九十七錢

相場も最高五圓八十五錢で開場以來の最高記錄をつくつた、安五圓二十錢 馴五圓六十一錢 掛目四〇

實習地視察研究會　石城實業教育振興會では來月五日から實習地相互視察研究會を開くが日時割左の如し

五日—勿來 川部 錦山
六日—泉 渡邊 磐崎 玉田 菊田 植田

小名町議戰

當落は今晩十時

定員六名を增して二十四名となつた小名濱町の町會議員選擧は既報の如く今十七日同町小學校で行はれたが躍進途上の町だけに候補者は六名を超過して三十三名に上つてゐる、當落判明は今晩十時過ぎになるであらうと云はれてゐる

四、五千年前の縄文土器

草野驛長青木弘幹氏により 考古資料發掘さる

神谷村からまた考古學上貴重な資料が發掘された——同村地内には『貝塚』が各所にあり先住民族の遺蹟を知る上に注目の地となつてゐたが此程アマチュア史蹟研究家として斯道の探究に沒頭してゐる草野驛長青木弘幹氏が同村立坂地内片寄鶴次郎さん所有の畑地から叩石、石斧、直徑一尺五寸餘の壺、尺餘の鉢や鏃等を發掘した、これらは何れも模様或は鳥の頭部を型取つたものを刻みつけてあるなど精巧を極めたその昔の藝術品である

早速縣囑託の八代義定氏に鑑定を求めた處石器時代の民族が使用したと云ふ『縄文土器』であることが判り四千年乃至五千年を經過したものであらうとの鑑定で亦發掘を試みる筈である

神谷村からまた考古學上貴重な資料が發掘された畑地は四十米乃至五十米の高所にあり なほ未發掘の貝塚が二、三ケ所あるので近くこれを發掘して珍重されてゐる

北自青年旅行。市内北自青年團では十五日團員約二十名が江の島旅行

磐女校内競技。磐城高女

海外に石城を懐しむ

在米佐々木修一氏の昔語り讀後感

『恩師=松岡先生』承前。

松岡先生は幕臣の出であつたからでもあらう。大の薩長ぎらひだつた。勤王派である處から水戸學を崇拜し、其の大日本史を孔子の春秋と併稱し得るものだと云つて居た。『吉之助の羅』と云つて惡口し、伊藤博文を下劣な男だと惡口した。そんな風に迎も變つた處があつた。

先生の漢文に對する見解は、私はその當時常識を逸した様に思はれたが今考へて見ると仲々處ぢや無い大に要領を得たものであつた。先生は云つた上で讀むものではありません』純粋な漢文とは云へぬと云ふ文章の上からでもあらうが……と云つた。大西郷の銅像を上野に建てたのは目の上に瘤を造つた様なものだとし『吉之助の羅』と云つて惡口し、伊藤博文を下劣な

○△生　K

遅くも八月迄に 平市農會結成か

新議員は大体二十名

平市制實施に伴ひ舊平、平窪の兩町村農會は當然『平市農會』となる、目下農繁期と市議選擧を控へてゐる關係から未だその手續は履んでゐないが大体七月下旬か八月頃にはこれを改組して『市農會』が生まるる筈である、從つて會長以下新役員の顔ぶれなどについてもはや關係者の話題となつてゐる、議員の定員は新規約によつて定められるわけだが大体二十名位になるだらうと云はれ選擧區が設定されるのだから肅正騒ぎもなくてく平穏な選擧が行はれることになる、尚現在の會長は平が諸橋久太郎、平窪が草野富彌の兩氏である

平商野外演習　平商一年

除隊　市内上平窪草野源吾君は歩兵第七十六聯隊を除隊、十七日午後四時四十四分着で歸郷

篠原、菊地の名コンビ

愈々來る廿日から 磐中庭球部指導

昨十六日から磐城高女で庭球コーチをしてゐる中央大で野木判事係りで開く辯護士安齋・門傳、松野尾、市井の四氏から一週間に亘つて菊地法政大學前衛選手と共に磐中選手の指導に當ることとなつた

菊地選手は東日本學生選手權大會には准々決勝で明大井下組を5—3で屠り、更に准決勝では前記篠原選手組と對して善戰したが惜しくも敗れた名選手である

平商校内陸上競技成績

今晩平商校中廊下の硝子窓を破つて賊侵入

今晩平商校中廊下の硝子窓を破つて賊侵入、職員室に入つたらしいが幸ひ被害はなかつた、賊は侵入の際硝子で手を怪我したらしく廊下敗ケ所に血がついてゐた平署で犯人捜査中

遅くも八月迄に 平市農會結成か

新議員は大体二十名

平商野外演習　平商一年

平商校内陸上競技成績

今晩平商校中廊下の硝子窓を破つて賊侵入

川　小名濱

七日—赤井一　同二　小川平窪　飯野

八日—高久　夏井　草野大浦

平商校内陸上競技大會は十六日開かれたが成績左の如し

百米一二秒五四年酒井道夫　二百米二七秒五四年上田一政　四百米五七秒八五年金成久吉　八百米二分二九秒三年鎌倉忠治　千五百米四分五二秒五年古市勝美　八百リレー一分四六秒八五年古市　渡邊　金成　西山　走高跳一米七〇A五年西山直之　走巾跳五米二八五年渡邊清吉　棒高跳二米九〇A五年西山正之　砲丸投一〇米五二金成久吉　三段跳安島末吉　バ球投三一米二九二年高橋重

篠原、菊地の名コンビ

愈々來る廿日から 磐中庭球部指導

東京市場へ 鷲蟲豆共同出荷

植田から先づ一車

植田町農會では十五日東京神田市場へ鷲豆(一車)の生は十七日好間村上野原で野外演習

女子從業員大募集

一、勤務先　三重縣四日市々外日永　東洋モスリン株式會社三重工場
一、事業　毛糸紡績
一、資本金　壹千五百萬圓
一、事業主　東洋モスリン株式會社　取締役社長　門野重九郎
一、現在工員　男七〇名　女二八〇名　計參百五十名
工場現況　採光通風冷房暖房ノ近代的裝置ヲ施セル最新式優秀工場ニシテ目下五萬坪ノ敷地ニ大增設中、位置ハ山紫水明絶對健康四日市々外ニ在リ伊勢潮ニ面シ、伊勢大廟ニハ僅カニ時餘ニシテ詣ズルヲ得
一、申込所　各職業紹介所又ハ本縣募集駐在社員へ
一、雇入條件
求人數　女子五〇〇人
令　滿十二才以上、二十才未滿
年齢　滿十二才以上、二十才未滿
住込　會社所定ノ完備セル寄宿舍ニ收容ス
教育程度　義務教育終了以上タル事
體格　身長四尺四寸以上ニシテ身體壯健ノモノ(會社所定ノ體格檢査ニ合格スルヲ要ス)
必要書類　志望者ハ戸籍抄本、學校卒業證明書及親權者ノ承諾書ヲ要ス(承諾書用紙ハ會社ヨリ交附)
給料　尋常小學校卒業者—初日給四十三錢乃至四十五錢　高等小學卒業者—初日給四十五錢乃至五十錢(但シ年令ニヨリ考慮ス)ヲ支給シ技倆ニヨリ年二回乃至四回昇給セシム尚一ケ月(會社ノ休日ヲ除ク)ヲ通シ無缺勤者ニハ皆勤賞與ヲ支給スル外年二回(六月、十二月)相應ノ期末賞與ヲ支給ス
手當　當分ノ間日給ノ外物價騰貴手當トシテ月額金五十錢ヲ支給ス
食費　一日金十五錢ヲ要ス
支度金　採用決定者ニハ應募地ヨリノ支度金(旅費相當額、辨當代)ヲ支給ス、コノ外作業服代金貳圓支給、但シ旅費作業服代支給ハ勤續一年以下タルトキハ本人負擔タルコト、別ニ小使トシテ金二圓ヲ呈ス
勤務時間　交代番九時間、定番十時間外就業の場合ハ三十分休憩、但シ定時間外就業の場合一時間ニ對シ日給ノ一割ヲ割增加給ス
教育　知事認可青年學校令ニ依ル實科女學校ノ設備中
賃金支拂　毎月二十五日締切(前月ノ二十六日ヨリ當月二十五日)ニテ月末現金ニテ支拂フ、但シ寄宿工ハ通例金貳圓以内ヲ手渡シ殘額ハ貯金ニ積立セシメ年六分ノ利子ヲ附ス、家庭ヘ送金ノ場合ハ諸費用一切會社負擔トス
◎雇入條件合格者ハ！
雇入條件ニ合格セル三名以上ノ女子ヲ一組トシ附添一名(希望ナレバソノ女子ノ父兄ニテ可)ニテ當工場ヘ御來社ノリタシ(附添者ニハ旅費實費支給、神宮參拜斡旋)
昭和十二年六月
三重縣三重郡日永村
東洋モスリン株式會社三重工場

人夫募集

一、勤め先　植田町
一、日給　一圓四、五十錢(食費一日五十錢を要す)
健康な方なら何名でも可
尚はお世話下すつた方には一人に付一圓の薄謝を呈します
(姓名在社)

艶罪黑白

(えんざいくろしろ)

◇何の社會にもピンからキリ迄あるもの。俗代物、高物價時代とは々四、五十圓の前借で云ふものの、之を聞いあたら背丈な泥土に委すすものがあるかと思へばなるすしば◇中々先祖傳來の家くなる◇共れで玉代が同じとあつては金利が

違反の公判

四倉町議肥料商小湊平次郎(五一)同妻セン(五一)以下十名の選擧

展敗を拂つた處で得ら屋ら云つても引き合ふまれない程の大金がかかつて居るのも無いでは無い◇今度三島家から出た金助なんかは驚く勿れ千七百圓也と云ふ

ら買ひ置きも出來るが……』なんてキツス泥棒常智丈けに吸ふ事へ直ぐ持つて行くからイタ好かないネ。

女子從業員大募集

人夫募集

東洋モスリン株式會社三重工場

踏判定應驗
東京市本郵區湯島四丁目
高島易斷總本部　神誠館

舊五月十六日　金曜　新六月十日
丙子　友引　破　十八日　鬼宿日

清潮前 一一、五〇　同 〇、五五
千潮前 六、四〇　後 四、五五

▲一白　会家場って家業に出精すれば繁昌すべき日▲二黑　開發に努めて好成績を齎すべし病厄は注意▲三碧　かんれい邪智に引込まれて身の破滅を招く凶日▲四綠　短慮輕率を慎しみ定業を堅く守れ努むべし▲五黃　忠言を容れて身の方向を定むれば功現はる▲六白　一擧一動他の範となるべき様心掛くべき日▲七赤　萬事御ひ掛祭赤加はる盛運の日起業開店吉▲八白　なみも靜かに風穏かに舟行に適當なる如き日▲九紫　終日の勞苦も空となりて何等くひなき凶日